

社会心理学編 第1部 人間関係シリーズ

全5巻

監修 ● 東京都立大学名誉教授 詫摩武俊

■ 時間：約20分

1 社会へのデビュー

～対人的コミュニケーションの芽生え～

〈指導〉 湘北短期大学 菅原ますみ

● カラー

乳幼児についての研究は1960年代になってようやく本格化した。生まれて間もない乳幼児は、眠ることと泣くこと、そしてミルクを飲むこと以外何もできない未熟な存在であると長い間信じられてきた。しかし、研究が進む中で、乳幼児は外見とはかけ離れた優れた知的な能力を備えて生まれてきていることが分かってきている。

この作品では、大人を魅了する新生児のベビッシュネスや微笑み、関心の所在を主張する指差し行動、そして喃語から言語へと急速に発達する乳幼児のコミュニケーション行動を映像で追う。

2 親と子のきずな

～母へのアタッチメント～

〈指導〉 白百合女子大学 繁多 進

● カラー

生後半年を過ぎる頃から、乳幼児は母親に対して、母親が離れると泣く、母親の後を追うなど、他の人に対しての行動とは異なった特別な行動を取るようになる。乳幼児が母親に対して抱く特別な感情をイギリスの精神分析学者ボウルビーは『アタッチメント』と呼んだ。

この作品は、子供が母親に対してどの程度の愛着（アタッチメント）を示しているか、その程度を評価する実験を紹介しながら親子のきずなを考える。この方法はボウルビーの理論を基礎にエインズワースによって開発されたもので、日本だけでなく、世界各国の施設や研究機関において実践されている。

3 自分自身との出会い

～自己意識の実験社会心理学～

〈指導〉 江戸川大学 菅原健介

● カラー

私たちは常に自分自身を意識している訳ではない。毎日の生活の中では、むしろ、自分自身よりも外の世界に注意が向いている。自分自身に注意が向かっている状態を『セルフ・アウェアネス』と呼び、セルフアウェアネスを高めることで人は自己なるものの意味を考えることができる。

人間は他人だけでなく、自分とつきあいながら一生を送る動物である。われわれは自分自身といつどんな形で出会うのか。また、自分と向き合い自問自答することで人の行動がどう変わるのか。従来まで思索的に語られてきた問題に、実験心理学の立場からあくまで実証的に切り込んでいく。

4 青年期の人間関係

～友情と恋愛～

〈指導〉 聖心女子大学 松井 豊

●カラー

青年は親の影響からのがれ、友人や恋人とのかかわりを深めていく。青年にとって友人とは何か、友情と恋愛はどこが異なっているのか、恋愛に伴う気持ちは男性と女性とではどのように異なっているのだろうか。

この作品では、友情や恋愛に関する青年心理学や社会心理学の成果を紹介しながら、友情と恋愛の違い、子供の恋と大人の恋の違い、恋愛の発達過程、恋愛のパターンなどを提示していく。

5 対人関係の病理と治療

～心理療法あれこれ～

〈指導〉 東京都立大学 永井 徹

●カラー

対人関係の中での自分のあり方について悩んでいる人は多い。この問題は『対人恐怖』と呼ばれ、青年期の人間に多い問題である。また、その文化的背景や習慣などの影響から、特に日本人に多く見られるものでもある。

この対人恐怖の原因はどこにあるのか。対人関係の病理を明らかにするとともに、心理療法がそうした問題の解決にどのように役立つのか、精神分析、カウンセリング、行動療法などの種々のアプローチを取上げ、その特徴について考えてみる。

6 社会の中の高齢者

〈指導〉 白百合女子大学 林洋一

●カラー

人口の高齢化が急速に進行しつつある現在、高齢者の持つ潜在的な可能性を生かし、サクセスフル・エイジングを実現することが個人的にもまた社会的にも強く求められている。

この作品では、生涯発達の視点から社会の中で生きる高齢者の姿を通し、老いることの心理学的な意味を探る。人口の高齢化とその社会に与えるインパクト、高齢者の学習と生きがい、老人福祉施設での高齢者介護の映像などを通し、現代の日本におけるサクセスフル・エイジングを実証的に考える。

7 きょうだいの序列・その扱いと性格

〈指導〉 天羽幸子(ツインマザーズクラブ)

●カラー

人の性格は様々である。それは生まれつき備わっているのか？それとも環境の影響を受けることが多いのか？遺伝子は全く同じとされる一卵性の双子でも、性格は全く同じではない。そこには日本の社会に独特な「きょうだい」としての扱いから生じる性格の違いがみられる。

かつての家族制度の存在が「きょうだい」の上下(序列)によって生活に大きな影響を与えていたが、今でもその名残りが日本の社会に残っている。このようなことは英語圏には全くみられない。

この作品では、きょうだいの序列が性格形成に与える影響などを取りあげる。

8

性役割と社会

〈指導〉 明治学院大学 飯野晴美

●カラー

「女らしい人」「男らしくない態度」「男は仕事、女は家庭」「男女平等」……。日頃私たちが何気なく口にし、耳にする言葉である。それは現代社会において、男性と女性のあり方を巡って様々な考え方があり、活発な論議が交わされている証である。

そこには、私たちが誕生と同時に授けられる生物学的な性別だけでは解決できない問題が横たわっている。男性・女性それぞれに対して社会が期待する役割を「性役割」という。

私たちが家庭生活や社会生活を円滑に送るためには生物学的な「性別」だけでは不十分で、心理的・社会的性別ともいえる「性役割」について考えてみる必要がある。

9

結婚と離婚

〈指導〉 東京国際大学 小田切紀子

●カラー

結婚には、多くの人が満足感や幸福感などの肯定的な感情や認知を持つ。しかし男性と女性では、結婚に対する期待や意識に違いがあることが明らかになっている。そこで現代における結婚の実態を解説したのち、夫婦のすれ違いが生じる背景を明らかにする。

次に、婚姻関係の解消である離婚について取り上げる。離婚事情は、それぞれの時代を反映しているといわれている。そこで現代の離婚の特徴を提示し、さらに離婚家族が抱える問題およびそれらを解決するために必要な要因を考える。

10

対人コミュニケーション・会話と適応

〈指導〉 聖心女子大学 鈴木乙史

●カラー

人間が他者との関係の中で最も頻繁に行っていることは「会話」であろう。私たちは一見、語る内容が自由に選ぶことができるように感じているが、「会話」は「関係」によって強く規定されているのである。

さらに、私たちの「会話」の中には、人を精神的に健康にさせるような要素と同時に、人を病的にさせるような要素も含まれている。

この作品では、対人コミュニケーションの特質を、「会話」「関係」「適応」といったキーワードを用いて解説する。

・お問合せ・お申込みは

有限
会社

博映商事

TEL 092-741-0306 FAX 092-741-6628

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-3-31-220

【HP】 <http://hakuei-shoji.jp>【E-Mail】 info@hakuei-shoji.jp